令和５年度　第１回　碧南市地域自立支援協議会　会議録

１　日時

令和５年７月７日（金）午前１０時００分から午前１１時３０分まで

２　場所

へきなん福祉センターあいくる　デイルーム

３　出席者

(1) 委員　１９名

碧南市社会福祉協議会　杉浦　浩二（委員長）

碧南市手をつなぐ育成会　三浦　志朗（職務代理）

日本福祉大学教授　青木　聖久

碧南市身体障害者福祉協会　鈴木　たか子

碧南市民生委員児童委員協議会　[illegible]　和弘

ＮＰＯ法人ハートフルあおみ（あおみＪセンター所長）水野　啓章

刈谷公共職業安定所碧南出張所　小林　真人（永田　吉則の代理）

愛知県衣浦東部保健所　岸　歩（西出　素子の代理）

愛知県刈谷児童相談センター　柘植　偉昭（瀬戸　奈都生の代理）

愛知県立にしお特別支援学校　早川　浩史

親子の会「カラフル」　鈴木　由記

身体に障害のある子の親子の会「すまいる」　永井　美幸

ほっとまんまピアサポーター　杉浦　有美

スギ製菓株式会社　杉浦　信秀

西三河南部西障害者就業・生活支援センターくるくる　川村　顕治

サンフレア　高松　有美

就労センターオアシス碧南　中根　祐子

ふれあい支援センター　浅野　将克

ＡＲＴＩＳＴ　ＪＡＰＡＮ　森脇　友理

(2) 事務局

福祉こども部長　深津　広明

福祉課長　山本　貴史

福祉課社会福祉係長　山本　昌弘

福祉課社会福祉係主事　畠山　和也

福祉課社会福祉係主事　齊木　鉄馬

福祉課社会福祉係主事　亀島　瑞生

(3) 基幹相談支援センター（碧南市社会福祉協議会）

地域福祉課長　　大野　孝男

地域福祉課地域福祉係主査　古川　裕隆

地域福祉課地域福祉係主査　小島　誠司

地域福祉課地域福祉係主事　坪井　優佳

地域福祉課地域福祉係主事　長谷川　祥子

地域福祉課地域福祉係主事　天野　好美

地域福祉課地域福祉係主事　久村　明弘

4　傍聴者

３人

5　議題

(1) 障害福祉サービス等の提供実績について

(2) 基幹相談支援センターの実績について

(3) 碧南市地域自立支援協議会各作業部会の実績報告及び今年度の取組について

(4) へきなん障害者ハーモニープランの策定について

6　議事の要旨

(1) あいさつ（杉浦会長）

(2) 議題

ア　障害福祉サービス等の提供実績について

事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

＜主な意見・質疑＞

Ａ委員：障害者や高齢者は、ゴミ出しをする際にゴミが重く力がいる。ゴミ出しの支援はないか。

Ｂ委員：障害者については、障害区分の程度にもよるが、障害福祉サービスの家事援助を利用し週に２日など利用は可能である。

Ａ委員：ゴミ出しの曜日が決まっているため、その際に対応してほしい。

Ｂ委員：市内には様々な事業所があるため、対象者の希望に沿った事業所を利用することも可能である。

Ａ委員：人には言えず苦労している人が中にいる。そのような方に対し、支援の声が届くようにして欲しい。

Ｃ委員：様々なことについて、まずは社会福祉協議会など相談支援機関に相談してほしい。また、様々な制度について、行政もＰＲに努めていただきたい。

Ｄ委員：日常生活用具について、物価高により様々な物が高騰している。業者と話をしていて、碧南市の制度は充実していると実感しているが、物価高騰前と比較しても日常生活用具の補助額が変わっていないように感じる。

事務局：日常生活用具に限らずだが、種目や補助額等については、定期的に金額等の見直しを行っている。今後も、近隣市の動向も注目しながら、対応していきたい。

イ　基幹相談支援センターの実績について

事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

＜主な意見・質疑＞

特に意見・質疑等なし。

ウ　碧南市地域自立支援協議会各作業部会の実績報告及び今年度の取組について

事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

＜主な意見・質疑＞

特に意見・質疑等なし。

エ　へきなん障害者ハーモニープランの策定について

事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

＜主な意見・質疑＞

Ｅ委員：病院に係ることやグループホームに係ること、対象者がどこに受診すべきかの情報が分からない。

Ｆ委員：不登校の子が増えていることが気になり、不登校になる原因が障害ありきではないため難しいと思うが、対応の強化をしてほしい。個人的な気持ちとして、親が子を知ることが大切。子を客観的にみるというためにも、サポートブックを利用するなどの体制整備が出来ればいい。３８ページのにじの学園について、親子通園という形で運営されていると思うが、重度の子について、親子通園しながらの就労は困難であるため、配慮を検討してほしい。

事務局：確かに、にじの学園は親子通園施設として運営されている。しかし、社会状況を鑑みて、個別の相談には乗っていくことも可能であるため相談をいただければ柔軟に対応していくことは可能。

Ｇ委員：柔軟な対応ではなくて、多様化の時代に障害が重いから無理ではなく、どんな家庭でも働ける方向になるといいと思う。

Ｈ委員：様々な制度改正やサービスが増えているが、通うところが増えても繋がっていない利用者もいる。そのため、様々なサービスなどに繋がるよう

な政策を盛り込んだ計画にしてほしい。

Ｉ委員：他圏域の話ではあるが、相談支援事業所が圧迫されセルフプランにて就労系のサービスを利用している利用者が増えてきているが、現状の相談支援事業所の負担感はどうか？

事務局：碧南市では相談支援事業所が３ヶ所あるが、現状はセルフプランではなく、相談支援員がついて計画を作成し対応できている。

(3) その他

事務局が会議資料に基づき、次回の会議予定等を説明した。

7　まとめ

(1) 学識経験者（日本福祉大学　青木聖久　教授）

報告や、貴重な意見交換ご苦労様でしたとの言葉があり、下記のとおり４点話があった。

１点目は､今回の会議でも委員から話のあったゴミ出しの話など､声なき声がある。言葉に出る目に見える顕在的、今見えない潜在的な話がある。その中で、潜在的な課題を読み取る想像力が必要になってくる。

２点目に、ＩＣＴの工夫した活用ということ。オンライン受講やYouTubeの活用が多くなってきている。コロナ禍の中でリモート等が行われており、もう一歩踏み込んで、アーカイブ発信やYouTubeでの障害福祉サービス事業所の宣伝などをすると良いと思われる。その中で、休憩スペースがあるか、トイレ等が綺麗か、バリアフリーになっているか、利用者の様子、雰囲気はどうか等といった踏み込んだ部分を論点にすることも重要になってくる。

３点目に、やさしさのバトンとして、家族支援、聞き方や褒め方の話があった。家族を人生の主人公としてとらえ、保護者である前に主人公としてとらえる。自身を主人公として捉え、できていることを褒められるとうれしく思える。イライラしていると厳しい対応になってしまう。自身が褒められると嬉しくなり、それが家族にも繋がる。身近な社会資源は家族である。また、言語化、非言語化による、時間や場面の整理も大切になってくる。多くのことを伝える際は時間をおいて伝えることも必要である。家族が働くことは経済的だけではなく、精神的に新たな景色をみることにもつながり生きがいにも変わる。

最後に、普段から知る、関心を持つことが大事になってくる。特に大切なことは、関心を持つための仕掛けである。当事者の自分史を知ると、目のいきがちな特性だけではなく、人としての共通性も見出すことができる。現在、発達障害を患っている者は増えている。発達障害にある者は、発達凸凹がある。発達凸凹があるとしても、そ

の特性をもとに研究者として理解されることがあれば、自己肯定感を持てるようになり、社会との繋がりができる。しかし、発達凸凹があり、社会に馴染めないと不登校になることが多い。そのようなことを知ることができるようにハーモニープランにも取り込むことができれば良いものになると思われる。

以上